

## ◆平成27年度 学生研究論文優秀作品

(公益社団法人静岡県職業教育振興会主催)

ICT 映像・音響デザイン学科 2年 滝浪 博斗

## 「なぜ、アニメーターは不足しているのか」

現在、日本が制作するアニメーションは世界に広く評価されており、時間帯を問わずテレビ、インターネットを通じて放映されている。深夜アニメに関しては、2000年の制作本数が7本(推定)だったのに対し、ここ15年間では170本ほど制作されており、現在でもその数を伸ばしている。そして、当然、アニメ制作会社も増えてきているが、一方で、アニメーターの数はあまり伸びていない。日本国内のアニメーターは常に不足しているという現状なのである。

では、なぜアニメーターが不足しているのだろうか。制作会社側が求める人物像や画力の水準を満たす人材が足りていないということもあるが、制作会社における労働環境の悪さからアニメーターを離職してしまう人が増えてきていることが大きな要因として挙げられる。

例えば去年行われた「第三回ブラック企業大賞」では、過度な労働と過労自殺者を出してしまったことにより、あるアニメ制作会社がノミネートされてしまった。この件がインターネット上で特集され、アニメーターの労働体制についてますます議論されるようになった。

では、アニメーターの労働をめぐってどのようなことが問題視されているのかというと、「アニメ業界の賃金」と「アニメの資金の回収量」が大きく関わってくる。

まず、アニメはどのように制作されているかというと、絵を何枚も何枚も並べ、パラパラとめくっていくことで、まるで絵が動いているかのように見える。この絵を何十枚、何百枚と並べていくことにより、30分または60分の動画が生まれる。その一枚一枚を仕上げていくことが、アニメーターの仕事である。『SPA!』・7月12日号の記事によると、セル画単価はだいたい一枚あたり200円弱程度で、ベテランのアニメーターでも一か月で300~500枚程度を描けるくらいなので、単純計算で月十万円以下の収入にしかないのだ。

次に、アニメの制作費についてみてみよう。一般アニメについては一本当たりの制作費が800万円~1,000万円弱程度とされている。これは、現在までほとんど変化せず推移してきている。さらに、

完成度が問われる映画版アニメでは、大抵2~3億円程度、多くて数億円程度で制作されている。宮崎駿で有名なスタジオジブリの作品でも、20~30億円ほどである。

これらを踏まえた上で、アニメの売り上げについて考える。制作したアニメがヒットすれば資金の回収量は多いものになるが、ヒットするかどうかは不確実であり、どんなに原作が名の知られている作品であっても、作画と演出が評価されなければアニメとしての売り上げはいいものにはならない。ある制作会社が主力として制作しているアニメも、Blu-ray BOXで販売したとしても黒字ギリギリ、赤字覚悟で制作しているという。そして、全体的にアニメを買う消費者も年々、少なくなっている。これらの原因は実に簡単で、今はインターネットでアニメを見られるようになってきているからだ。テレビで一話が放映されたとして、その一話をネット上に上げるような違法行為をしているユーザーが増えているという現状がある。削除等の処置を行っても、また新しくアップロードされたりと、何の解決策にもなっていない。「ネットで見ればいいや」が常識化しつつあるのだ。アニメが売れなければ、当然、アニメーターにも影響が出てしまい、稼げていない分を他のアニメ制作に携わり給料として支払われるケースが多い。この携わる時間が残業となり、労働環境が悪化し離職、こうしてアニメーターの数が減るといふ、無限ループを繰り返している。これが今のアニメ制作会社の現状なのだ。また、今では、原画の中割りを描く動画という職を、海外のアニメーターに任せる会社も多い。これにより、新人のアニメーターが育たなくなってしまう。

これらにより、制作会社の立場が弱いという業界構造が出来上がり、アニメーターの全体の質の低下にも拍車がかかってしまっている。その上、アニメ制作会社が制作資金を回収できずにいることからアニメーターの賃金の低さを改善できることはなく、かといって労働需要は賃金に比例して少なくなることはない。

こうした問題をどのように解決し、アニメ業界の発展につなげればいいのか。今までのように賃金や悪環境の圧力に対抗する努力で向上心を高めていくような、精神的なものでは本格的な解決にはならない。日本のアニメの技術を組織的に高めていき、技術向上のための教育や人材育成に惜しまず資金を投入していくことが必要である。関連する業界、教育界、そして「クール・ジャパン」を推進する政府も一体となって取り組んでいくことが重要だと考える。そうすることで、世界に売り込むことができ、高品質の日本のアニメの減少を抑えることが出来るであろう。

学校法人 中村学園

専門学校 静岡電子情報カレッジ

静岡福祉医療専門学校

子ども心理学科 3年 塩谷 萌

「PDD(広汎性発達障害のうち自閉症)について」  
~自閉症者の世界観の理解と関わり~

はじめに 「自閉症」と聞いたとき、私たちが思い浮べる特徴や関わり方にはどんなものがあるだろう。コミュニケーションをとることが難しいことやこだわりがあるということが浮かぶのではないだろうか。私は、東田直樹さんが書いた『跳びはねる思考』という一冊の本を読んだ。そこには、「自閉症の僕」が考えていることがつづられている。この本を読み、私は自閉症障がいの方が人と話すのが難しいとされることには理由があること、こだわりを持った行動の意味などを自閉症者の視点から知ることができた。このように自閉症者の見ている世界を知ること理解することは、ただ特徴を踏まえて関わるよりもより深い関わりができるようになるのではないかと感じた。この研究では、一般的な自閉症の特徴と関わり方と自閉症者からの視点、気持ちを照らし合わせてより深い関わりをするためにはどのようにすべきかを考え、自閉症への周囲の理解が深まるようにしたい。

自閉症障がいとは広汎性発達障がいの一つである。診断基準は、対人関係の障がい、言語およびコミュニケーションの障がい、強迫的同一保持または常同行動の3つの症状が3歳以前にみられる場合とされている。対人関係の障がいとして、人への関心が乏しいことが挙げられる。例えば、幼児期であれば視線を合わさない、指さしがない、他の子どもに興味を示さないなどの特徴がみられる。また言語やコミュニケーションの障がいとして、言葉の遅れやオウム返し、ひとりごとなどが多く、一方的に話すことができても他者との会話は苦手としていることが挙げられる。強迫的同一保持または常同行動については「こだわりがある」と言われるが、興味のパターンに偏りがあることや、物の位置などが変わるなど変化することで混乱することがある。

次に自閉症者の世界観について考えたい。私たちは人と関わる第一歩として挨拶を大切にしているが、自閉症者に挨拶または簡単な質問をした時、「答えが返ってこない」「伝わっているのか」と思ってしまうことはないだろうか。そのとき、がっかりしたような表情をしたりしていないだろうか。自閉症者である東田さんは「言葉がうまく話せないため、上手に挨拶ができません。挨拶が僕にとって一番難しいコミュニケーションです」と述べている。東田さんには人がみえていない。人も風景の一部となって映っており、山や建物、

鳥などが一斉に話しかけてくるような感覚であり、その中で一番関心のあるものに心が惹かれるという。そのことから、挨拶をするために人を区別することは大変なことなのである。しかし、そうした理由で挨拶が返せないことで、答えが返ってこないとがっかりした顔を見た東田さんは傷つくことがあったそうだ。挨拶は返してくれるのが当たり前、コミュニケーションは挨拶からというのはこちらの一方的な考えなのかもしれない。寄り添うためには、「今何をみているのか」を考えることが大切である。また、強迫的同一性保持または常同行動についても意味がある。「こだわり」と言われることもあるが、その行動が無意味なものではないことを知って欲しい。東田さんは電子レンジのドアを少し開けて、閉めるという行動を必ず毎日行うそうだ。きっかけは、ドアが閉まらず何度もやり直したあときちんと閉まったその感覚にはまったことにある。電子レンジのドアを閉める音を聞くとすっきりした気持ちで、一仕事終わったときのようにほっとするそうだ。東田さんはこの行動について、「何かにすがりたいという気持ちは、みんな持っていると思います。だから、お守りやパワーストーンを身につけたり、縁起をかついだりするのでしょう」と述べ、この行動がそれに似ていて心の安定のためにやっていること、そしてよりどころと表現している。この行動が気持ちを支えているということを私たちは理解しなければならぬ。

おわりに 私はこの研究を通して初めて自閉症者が見ている世界を知ることができた。見えているものが一斉に話しかけてくる感覚や、自分で自分を悪い人間だと思ったり、言葉でうまく伝えられず真っ暗なトンネルに居るような気持ちなど、ただ自閉症障がいの特徴をみるだけではわからないことに気づくことができた。東田さんは、他者とともに生きていく上で、話せない分少しでも気持ちが通じたと感じるだけでとても嬉しいと述べている。「嬉しいね」「悲しかったね」と気持ちを共感することは誰にとっても嬉しいことなのである。さらに、考えていることや気持ちを読み取れるよう見守ることがとても大切であると感じた。このように自閉症障がいの方の見ている世界、気持ちをより多くの人が知っていくことこそが、共に生きる社会をつくる第一歩になると私は考える。

参考文献  
障害児保育(著者/小河晶子 西本望)  
跳びはねる思考 会話のできない自閉症の僕が考えていること(著者/東田直樹)

## ◆シズオカアプリコンテストで「優秀賞」を受賞しました!

ICT 情報システム学科 学科長 早崎 賢治

シズオカアプリコンテストは、静岡市が「シズオカ型オープンデータシステムの推進」プロジェクトの一環として開催した、市のオープンデータを活用したコンテストです。エントリーした個人・団体はプロ・アマを含め全国で 160 におよび、自治体が開催したアプリコンテストとしては日本最大規模となりました。

本学の ICT 情報システム学科ではゼミナールの授業を通じて、コンテストに向けてスマートフォンアプリの開発を行ってまいりました。学生全員がアプリ開発は初めての経験であり、多くの困難もありましたが、連日のように放課後遅くまで開発に取り組む直向な姿勢には担当教員としてもとても感動させられました。

学生たちの努力が報われ、今回製作した子育て支援アプリ「しずっ子マップ」は学生部門で全国第2位となる「優秀賞」をいただくことができました。ご支援いただいた校長先生をはじめ諸先生方、応援いただいた学生・保護者の皆様に深く感謝いたします。

ICT 情報システム学科 1年 高橋 卓也

今回のコンテスト参加にあたり、とにかく初めての事ばかりでたくさんの困難がありましたが、同時に自分たちの成長につながる収穫も数多くありました。中でも私が一番の収穫だと感じているのは「ニーズを常に意識しながら開発できたこと」です。今回のコンテストの選考形式では、アプリを使う消費者のニーズと、主催者である静岡市のニーズの両方を捉える必要がありました。そして最終選考の際に他の作品を拝見する中で、様々な立場のニーズと開発者の思惑がすべて噛み合った時に、「よいアプリ」が生まれるのだと感じました。このような開発物を様々な立場から捉える考え方は、学校の授業ではあまり学ぶ機会はありませんが、開発者として非常に重要なマインドだと思います。

このきっかけを無駄にせず、例えば学校でのプログラミング課題を実際に利用者がいることを想定して制作するなどして「開発者としての自分」を育てていきたいと思っています。

静岡市 X amazon web services  
※参加費を無料にAmazonウェブサービス(AWS)を無料で利用できる50分クーポンを連発!

賞金賞品総額100万円!  
君のアイデアでアプリ王をめざせ!

Shizuoka city & Amazon Presents

### シズオカアプリコンテスト

# Shizuoka App Awards

みんなでOPEN!  
シズオカオープンデータプロジェクト  
Shizuoka OPEN DATA Project

募集期間 2015.10.23~2016.1.15

アプリ部門 最優秀賞30万円  
アイデア部門 最優秀賞 5万円  
学生部門 最優秀賞 5万円(金券)

シズオカアプリコンテスト

今すぐWebをCheck!

コンペティション & 表彰式 2016.2.26(金)

新静岡セノバ9階シネシティザート  
主催:静岡市 共催:アマゾンウェブサービス ジャパン(株) 協力:美しずおかオンライン

